

磯子区 いま、むかし

埋立てにより、大きく変わってきた磯子

明治 22 (1889) 年の市制施行までの磯子区は、久良岐郡の根岸村、屏風浦村、日下村という 3つの村からなる交通が不便ながら風光明媚な農村、漁村でした。

昭和 34 (1959) 年頃からの根岸湾の埋立てにより、かつての景勝地だった湾内に石油精製、造船、機械などの企業が進出し、京浜工業地帯の一翼を担う地区になりました。

昭和 39 (1964) 年から昭和 48 (1973) 年には、国鉄 (現 JR) 根岸線が大船駅まで延伸され、工業地帯の従業員の住まいを確保するために沿線の宅地造成は加速しました。磯子区の人口は昭和 35 (1960) 年の 74,458 人から昭和 50 (1975) 年には 156,165 人と、およそ 2.1 倍に急増しました。

磯子区は関内・関外地区に隣接し、交通の便が良いことから、住宅都市であるとともに、工業都市でもあるなど多様性を持つ区へと発展してきました。

住宅地の、いま、むかし



※昭和 30 年頃



※令和 2 年度
浅間神社から、杉田湾を望む

工業地帯の、いま、むかし —根岸湾の埋立—



※昭和 35 年頃



※令和元年度
※根岸湾上空
写真提供：横浜市港湾局

磯子区の「いま」については、この統計白書に掲載されているデータやコラムをお読みいただけますと幸いです。

これからも、「地域の皆さまとともにつくる笑顔あふれるまち・いそご」の実現に向けて、区民の皆さまのご理解とご協力の程、引き続きよろしく申し上げます。

参考：「横浜市都市計画マスタープラン磯子区プラン 磯子区まちづくり方針」(平成 30年 3月)
「横浜の埋立」(平成 4年 3月)

【お問合せ】 磯子区総務課
電話 750-2316 FAX 750-2530